



オーエム機器株式会社 (オーエムグループ)

本社：総社市赤浜500
業種：製造業
従業員数：126名（令和3年1月1日現在）
設立：1973年
資本金：6,480万円
URL：https://www.omrex.co.jp
経営理念：

- 一、客先、株主、社員に信頼される企業
- 一、進取の精神で特異性のある企業
- 一、地域社会に役立つ企業



訓練の様子

BCP策定に取り組まれたきっかけ

東日本大震災後、BCPにすぐに取り組まないといけな
い意識となり、（公財）岡山県産業振興財団のモデ
ル企業募集にすぐに手をあげた。当時の研修講師が
熱心に指導してくれたおかげで何とかBCPの形になった。

BCP策定のメリットや BCP策定・運用にあたり苦労した点

<策定によるメリット>

・取引先（大企業）から問い合わせがあっても、BCP
策定済をお伝えすることで安心してもらえる。

<苦労した点>

・中核事業部分のアップデートは行っているが、正直
経営全体の見直しは出来ておらず、何か起きた時に
耐えるかどうか不安な部分もある。

・見直しをしなければならないと思っている中で、様々
なセミナーや簡易版のフォームなどがあるという情報は
入手しているが、時間を確保して作業が出来ていない。

BCPの特徴・こだわりポイント

- ・組織体制が変わる度に、BCPも見直しすることが重要である。
- ・安否確認訓練や避難訓練を年2回実施。（台風・地震・大雨の際
などに一斉配信を実施している）当初はシステム導入も検討したが、
現在は全従業員に対してメールでの確認を実施。今は全従業員から
返信がある。（メールがない人にはTELでフォロー）
- ・BCPを策定するのは、供給責任を果たさなければならないから。
OAフロアを製造しているので、自社の納品が止まるとゼネコンの仕事も
止まり、建造物が完成しないことになってしまう。それを避けるためにも、
早期復旧・事業継続することは必須と考えている。
- ・実際に平成30年7月豪雨では、取引先ダンボールメーカーが被災し
納入できなくなった。一時的には別の会社から納入するも、復旧後すぐ
に取引を元に戻した。日頃からの信頼関係があれば、取引は元に戻
ると考えている。
- ・代替生産は茨城工場と英田工場（美作市）で可能。代替生産に
ついては中核事業である床材生産（OAフロア）のみを考えており、
福祉機器はバックアップ程度。⇒メリハリをつけたBCP
- ・毎月実施している安全衛生委員会に毎回産業医が参加し、新型コ
ロナウイルス感染症関連の最新情報・対策等を共有してもらっている。

感染症BCPについての取り組み

- ・グループ全拠点で同一の基準を設定。
- ・予防策の徹底と社員のモチベーション維持を両立。
- ・予防策は、座席間を間引き、衝立も自社で設置。食堂も、一方向（同じ方向）を向いて食事ができるようレイアウト変更。
- ・全社員毎朝検温し、タイムカードと同時に記録するようになっている（アルコール消毒についても確認）。業務部で全従業員の記録をチェック。家族で発熱の症状がある者がいないか等まで報告をもらうようにしている。（※来訪者も同様）
- ・当初はそこまでの徹底的な検温報告に反発する社員もいたが、責任者が丁寧に一対一で説明をしていくと最終的にはとても理解してくれた。今では社員同士で対策等について話すことでリスク意識が上がってきている。
- ・もし在社中に発熱したら速やかに帰宅させ、医療機関の指示を仰ぐように指導。
- ・県外からの来客はWEBにて打合せ実施。来客についても受付にて必要確認事項を記入の上、入館してもらう。従業員の県外出張はコロナ禍より全件要申請、役員決裁とした。
- ・東京はテレワーク実施。本社（岡山）はいつでもテレワークできる準備をしているが、現場社員との公平性・モチベーションを維持するためにも現時点では基本出勤としている。
- ・感染症対策をしつつ、リスクを背負って製造してくれたことへの感謝を示すため、全社員（含む派遣社員）に協力金を贈呈。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に関して、会社が想定すべきことと社員の初動や対応などを、全従業員に回覧し、同意を得ている。